

令和6年度 愛知県 英語教育改善プラン

目標

言語活動を通して英語を使う楽しさを実感し、主体的に英語を学び続ける児童の育成

○児童の授業における英語による言語活動の割合が50%以上である学校の割合（R5：92.2%⇒R6：95.0%）

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①授業における英語による言語活動の割合が50%以上である学校の割合が増加。

(R4:90.1%⇒R5:92.2%)

②小学校と連携している中学校の割合が増加。

(R4:48.3%⇒R5:53.5%)

未だ改善が必要な点

①CAN-DOリスト形式による学習到達目標の達成状況を公表している学校の割合及び把握している学校の割合が増加しているものの未だ低い。公表

(R4:32.5%⇒R5:38.6%)

把握

(R4: 51.1%⇒R5:59.8%)

2. 要因分析

①各地域の代表者が集まる教育課程研究協議会等で、県作成の研修動画を取り上げ、実際の授業映像見せながら言語活動の必要性を伝えた結果、それぞれの地域の研修等で研修内容が具体的に伝えられ、改善が見られたと考える。

②教育課程研究協議会や地域別授業研修等で、各校種の英語教員がその連携の必要性を実感できる場を提供できたことで、県内の普及率の増加につながった。また、愛知県特有の異校種人事交流によって配置された教師を軸に、小中連携が進んでいると考えられる。

① 単元のはじめに、学習到達目標を子供と共有し、パフォーマンステストにつなげることや、評価の結果を教師が次の指導の改善に生かす等の学習の流れについての理解が不十分である。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②県作成研修動画活用の推進

県作成研修動画（言語活動を中心とした実際の授業を編集したもの）をオンデマンドで配信し、各学校の現職教育研修等において、活用を促すことで授業改善を図る。さらには同動画を小中連携の題材として活用されるように周知する。

② 愛知県の特徴を生かした小中連携の推進

異校種人事交流によって配置された教師を軸にした授業公開や意見交流を通して、さらなる小中高連携の充実を図る。

③地区別授業研修の推進

小中連携は進んでいるものの、高校も含めた3校種間が連携した英語教育を推進する必要がある。令和5年度より実施している「あいちリーディングスクール事業」の地区別授業研修の周知を通して小中高連携を図り、10年間を見通した英語教育を目指す。

①「指導と評価の一体化」の推進

児童とCAN-DOリスト形式により設定した学習到達目標を共有することの大切さや「指導と評価の一体化」の必要性について、市町村教育委員会指導主事や各地区代表へ伝達し、各学校への指導や研修会等において生かす。

②文部科学省事業の積極的な活用の推進

- ・MEXCBT（文部科学省CBTシステム）
- ・mextchannelに掲載された英語の授業・解説動画（文部科学省YouTube）
- ・教師の英語力・指導力の向上のための実践的なオンライン研修
- ・英語資格・検定試験の特別受験制度

令和6年度 愛知県 英語教育改善プラン

目標

言語活動を通して英語によるコミュニケーションに積極的に取り組み、主体的に英語を学び続ける生徒の育成

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R5 : 35.6% ⇒ R6 : 50.0%)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①CAN-DOリスト形式による学習到達目標を公表している学校の割合が増加。

(R4:48.0%⇒R5:53.5%)

②CAN-DOリスト形式による学習到達目標の達成状況を把握している学校の割合が増加。

(R4:58.6%⇒R5:69.2%)

③小学校と連携している中学校の割合が増加。

(R4:48.3%⇒R5:53.5%)

未だ改善が必要な点

①全国学力・学習状況調査（平均正答率）は全国平均より高く、「成績上位層も多い」という傾向がみられる。

(全国45.6%、愛知県49.0%)

一方で、中学3年生でCEFR A1相当以上の英語力を有している生徒の割合は、微増であった。

(全国50.0%、愛知県35.6%)

②英語担当教員の授業における英語使用状況の割合が半分以上の学校の割合が全国平均より低い。

(R4:48.1%⇒R5:43.4%)

2. 要因分析

①②教育課程研究協議会等で、学習到達目標を生徒と共有する必要性や「指導と評価の一体化」の重要性について取り上げて、各地域の代表者に伝えた結果、それぞれの地域の研修等で普及され、改善したと考えられる。

③教育課程研究協議会や地域別授業研修等で、各校種の英語教員がその連携の必要性を実感できる場を提供できたことで、県内の普及率の増加につながった。また、愛知県特有の異校種人事交流によって配置された教師を軸に、小中連携が進んでいると考えられる。

①全国学力・学習状況調査からわかる生徒の実力と英語教育実施状況調査の結果には大きな差が見られる。これは、CEFR A1相当の英語力について周知しきれていないことが原因であると考えられる。

②英語による言語活動を中心とした実際の授業を編集し、県作成研修動画としてオンデマンドで配信しているが、すべての教員にまで周知ができていないことも原因の一つと考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②市町村教育委員会指導主事や各地域の代表者への周知
CAN-DOリスト形式による学習到達目標の設定やその活用について、引き続き、各研修等で周知徹底を図る。
学習到達目標と単元目標とのつながりなど「指導と評価の一体化」について、引き続き理解を深める研修を行う。

③地区別授業研修の推進

令和5年度より実施している「あいちリーディングスクール事業」の地区別授業研修を周知し、小・中・高等学校の英語教育を一環としたものと捉え、10年間を見通した英語教育の大切さを実感できる機会を増やすことで、さらなる小中高連携の充実を図る。

①教育課程研究協議会等での情報共有の場の設定
各地区の代表者が集まる機会を通じ、市町村の状況を共有できる機会を設ける。

②県作成研修動画の普及

様々な研修等において、県作成研修動画の活用を周知する。また、実際に、県作成研修動画を視聴し、授業における英語使用について理解を深める研修を行う。生徒の発達段階に応じた英語の使用の具体例を示し、その実践を促進する。

③文部科学省事業の積極的な活用の推進

- ・MEXCBT（文部科学省CBTシステム）
- ・mextchannelに掲載された英語の授業・解説動画（文部科学省YouTube）
- ・教師の英語力・指導力の向上のための実践的なオンライン研修
- ・英語資格・検定試験の特別受験制度

令和6年度 愛知県 英語教育改善プラン

目標

世界とつながり、生き生きと活躍するために必要な力の育成

- CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R5 : A2以上 46.1%、B1以上 18.3% ⇒R6 : A2以上 50.0%、B1以上 25.0%)
- 授業中、50%以上の時間、言語活動を行っている学校の割合 (R5 : 37.8% ⇒R6 : 50.0%)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①CEFR A2レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合が昨年から大きく増加した
(R4:41.3%⇒R5:46.1%)
- ②授業中、50%以上の時間、言語活動を行っている学校の割合が昨年から微増した
(R4:37.4%⇒R5:37.8%)

未だ改善が必要な点

- ①「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標を設定している学校の割合が昨年から増加したが、引き続き改善の余地がある。
(R4:91.9%⇒R5:94.3%)
- ②CEFR B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合が昨年から減少した
(R4:20.9%⇒R5:18.3%)
- ③小学校と連携している学校の割合が昨年から減少した
(R4:11.0%⇒R5:9.6%)

2. 要因分析

- ①令和5年度より実施している「あいちリーディングスクール事業」によって、授業改善及び指導と評価の一体化が進んだことで、生徒の英語力をより適切に見とることができたことが要因と考えられる。
- ②教育課程協議会において、統合的な言語活動やパフォーマンステストの意義を繰り返し伝えたことが要因と考えられる。

- ① 学科の改編や新しい学習指導要領の実施などに合わせて「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標を改訂する途中の学校があったことが要因と考えられる。
- ②「あいちリーディングスクール事業」において、英語教育の裾野を広げることには一定の成果があったが、グローバルに活躍することが期待される層を育成するまでに至っていないことが要因と考えられる。
- ③各学校に小学校と連携するまでの余裕がなかったことが要因と考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①「あいちリーディングスクール事業」の一層の推進
「あいちリーディングスクール事業」において、専門学科等を有する学校を新たに事業指定校に加え、授業改善及び「指導と評価の一体化」をさらに推進することで、英語教育の裾野を広げ、本県全体の英語力の一層の向上を目指す。
- ②「統合的な言語活動」の一層の充実
教育課程協議会等において、統合的な言語活動及び効果的なパフォーマンステストの実践例を紹介し、生徒を「学びの主体」とした言語活動を一層充実させることで、生徒の英語運用能力の向上を目指す。
- ①「CAN-DOリスト」の改訂及び公表
教育課程協議会等において、「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標を設定し、「CAN-DOリスト」を用いて学習到達目標の達成状況を把握することの意義を繰り返し伝え、「CAN-DOリスト」の改訂及び公表を全校に求める。
- ②イングリッシュフォーラムの活用
地区別授業研修や、各校の英語教育における取組等を発表する「イングリッシュフォーラム」において、「教師の英語力・指導力の向上のための実践的オンライン研修」受講者を講師として招へいし、グローバルに活躍することが期待される層の育成に資する方策を多くの学校に伝える。
- ③小中高で一貫した外国語（英語）教育の必要性
「あいちリーディングスクール事業」において、小学校の教員にも高校での授業研修への積極的な参加を求めることで、小中高連携の一層の充実を図る。

愛知県教育委員会

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	50	46.1	50		50		50		50		
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	25	18.3	25		25		25		25		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	50	37.8	50		50		50		50		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	40	37.8	40		40		40		40		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	94.3	100		100		100		100	
		公表(%)	50	39.2	50		50		50		50	
		達成状況の把握(%)	60	53.4	60		60		60		60	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	70	76.7	80		80		80		80		
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	50	25.4	50		50		50		50			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	50	35.6	50		60		60		60		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	90	54.5	90		90		90		90		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	90	66.2	90		90		90		90		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	88.3	100		100		100		100	
		公表(%)	80	53.5	80		80		80		80	
		達成状況の把握(%)	80	69.2	80		80		80		80	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	50	36.5	40		45		50		50		
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	90	43.4	50		60		70		80			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	72.3	100		100		100		100
		公表(%)	80	38.6	80		80		80		80
		達成状況の把握(%)	80	59.8	80		80		80		80